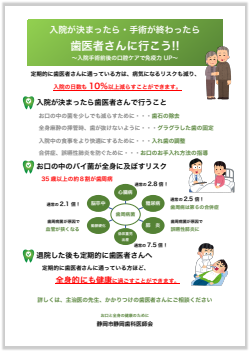
静岡市静岡歯科医師会における
周術期等口腔機能管理推進への取り組み

〇石井靖人 片山貴之 今村陽一郎 中島還 （一般社団法人 静岡市静岡歯科医師会）

目 的

団塊の世代が75歳以上になる2025年を見据えて、厚生労働省は地域包括ケアシステムの構築を目指しており、医科歯科連携による周術期等の口腔機能管理を推進している。そのような社会背景のもとで静岡市静岡歯科医師会（以下、本会）では、平成25年7月より周術期口腔機能管理運営委員会（以下、委員会）を設立し、医科歯科連携の推進に取り組んできた。

そこで、これまでの委員会の事業活動、および本会と各病院とで構築してきた医科歯科連携システムとその成果について報告する。



【委員会の目的】

「治療中心型」の歯科治療だけではなく、全身的な疾患の状況などもふまえ、関係者と連携しつつ患者個々の状態に応じた口腔機能の維持・回復(獲得)のための「治療・管理・連携型」の歯科治療の必要性が今後さらに増すと予想される。当委員会では、その必要性に対応すべく以下の項目を目的とし活動を進めている。

1. 歯科的疾病の予防および安全な治療の提供
2. 口腔ケア知識の普及
3. 適正な保険算定のためのシステム作り

方 法

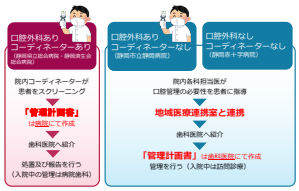
委員会では、手術時における歯科疾患由来の合併症予防、安全な治療の提供、およびがん治療の際に生じる口腔症状等の緩和に必要な知識の普及を進め、周術期等口腔機能管理を行える環境が整いつつある。また、市内の各総合病院とともに連携システム（図1）作りとその推進に取り組んでいる。

【委員会の役割・事業計画】

1. 「主治医からの依頼 」に対する受け皿作り
   - ・連携歯科医師・歯科衛生士の養成（研修会）
   - ・認定証発行・認定名簿の管理、更新制度
   - ・心得、マニュアルの作成（周術期等口腔機能管理料算定法など）
2. がん拠点病院、基幹病院（歯科口腔外科）、医師会等との連携（情報提供書および計画書・報告書の作成）
3. 患者（家族・市民）への口腔ケア知識の普及や啓蒙
4. 患者ならびに連携医向けの相談窓口整備およびサポート体制の確立

【連携システムの構築】

病院の事情により患者の受け入れ態勢は単一ではない。そこで本会では、それぞれの病院に適した3つのシステムを構築し連携を実施している。連携に際しては医療連携をスムーズに行えるように、病院から本会会員への依頼に際し、通常の診療情報提供書に加え、周術期等口腔機能管理計画書、周術期等口腔機能管理報告書、返信用診療情報提供書、および書類の保管先や診療報酬算定の要件などの説明文を添付している。



（図1）

結 果

【年度別口腔機能管理紹介患者数】

平成26年3月から連携を開始し、連携件数は平成25年度1件、26年度65件、27年度95件、28年度202件、29年度442件と経年的に増加傾向を認める。静岡県立総合病院では平成26年3月13日より連携を開始し、平成30年9月末までに684件。静岡市立静岡病院では、平成27年6月17日より連携を開始し324件。静岡赤十字病院では、平成30年6月26日より連携を開始し16件。また静岡済生会総合病院では連携を予定し打ち合わせを進めている。

	H25	H26	H27	H28	H29	H30 9月末まで	合計
静岡県立総合病院	1	65	81	101	264	172	684
静岡市立静岡病院			14	101	178	31	324
静岡赤十字病院					16		16
静岡済生会総合病院							
合計	1	65	95	202	442	219	1024

【紹介件数・院内完結件数比率（静岡県立総合病院）】

平成25年度には、ほぼ100%が院内完結型だったものが、平成29年度には49%と約半数が紹介となっている。また、ここ2年で比率が急増している理由として、病院、歯科医院双方の連携システムへの慣れと周知が進んでいることが考えられる。

		H25	H26	H27	H28	H29	H30 12月末まで	合計
静岡県立総合病院	紹介件数	1	65	81	101	264	274	786
	院内完結	368	404	344	329	270	232	1947
	合 計	369	469	425	430	534	506	2733
	紹介率	0%	14%	19%	23%	49%	54%	29%

結 論

生涯で2人に1人ががんに罹患し、3人に1人ががんで命を落とす現代、今後さらにがん患者数は増加していく。また、平成30年度診療報酬改定により総合病院での心臓血管外科手術、人工股関節などの手術、移植手術、脳卒中に対する手術など適応範囲が拡がった。それにより周術期等口腔機能管理の対象患者はさらに増加すると考えられる。

周術期等口腔機能管理の主な目的として、口腔衛生状態不良の患者における口腔内細菌による合併症、手術の外科的侵襲等に由来する免疫力低下による感染、気管内挿管による誤嚥性肺炎等の予防などが挙げられている。これらの目的を達成するため、各病院とともに医科歯科連携の推進に取り組み、継続的に情報を共有、問題点を改善するために委員会が機能している。今後も医科歯科連携の推進により必要な医療を必要な市民に届けられるように尽力して行きたい。

今後の展望

1. 周術期患者の居住地は静岡市に限らないため、広い地域での連携を要する（県歯レベルの活動の重要性）
2. 病院との継続した連携（定期的な運営協議会の開催）
3. スキル維持のための研修会の定期開催
4. 患者、医科からの相談窓口の設置
5. 連携医でない先生との情報共有、全国の病院や医科（在宅含む）との連携・パラメディカルとの情報交換
6. がん以外の患者への口腔ケアの重要性の普及

一般社団法人 静岡市静岡歯科医師会
〒４２２−８００６
静岡県静岡市駿河区曲金三丁目３番１５号
TEL. ０５４−２８１−４０１０

第６８回 日本口腔衛生学会・総会

2019(令和元年)年 5 月 22 日(水)、23 日(木)、24 日(金)
ピアザ淡海(滋賀県大津市)

静岡市静岡歯科医師会における周術期等口腔機能管理推進への取り組み

○石井靖人　○片山貴久　○今村陽一郎　○中島遠

周術期等口腔機能管理における静岡システムを全国へ

成人保健部担当理事　石井靖人

昨年は、今村理事が「災害時の歯科保健対策の取り組み」について同学会で発表を行い、今年も本会が進めている取り組みを多くの方々に知っていただくために、片山執行部のスローガンでもある「魅力・発信・連携」のもと、「周術期等口腔機能管理推進への取り組み」について今村理事、中島理事と共に発表させていただきました。

団塊の世代が 75 歳以上になる 2025 年を見据えて、厚生労働省は地域包括ケアシステムの構築を目指しており、医科歯科連携による周術期等の口腔機能管理を推進しています。そのような社会背景のもとで本会では、平成 25 年 7 月より周術期口腔機能管理運営委員会（以下、委員会）を設立し、医科歯科連携の推進に取り組んできました。

そこで、これまでの委員会の事業活動、および本会と各病院とで構築してきた医科歯科連携システムとその成果について全国に向けて報告してきました。

当日の大津市は、晴天にも恵まれ全国から多くの先生方が集結しました。本会で進めているシステムが、歯科大学がない静岡県で、歯科を有さない総合病院との連携が進んでいることについてご興味をもたれた先生方から活発な討論、ご意見をいただきました。今後は疾病別の検証や院内完結型と紹介型の比率についての再検討、さらに多くの総合病院との連携を進め、市民の健康維持、健康寿命の延伸に寄与できればと思っております。会員の先生方のご協力無くしてはこの連携は進みません。今後ともご協力をお願いいたします。